

臨床研究の実施に関する情報公開

静岡県立こども病院では、2023年11月28日付けで倫理委員会の承認を得て、下記の臨床研究を実施します。関係各位の御理解と御協力をお願い申し上げます。

研究の拒否	患者さん又は患者さんの代理の方が、この研究のために試料・情報が使用されることにご了承いただけない場合は、問合せ先までご連絡ください。
研究課題名	治療困難なフォロー四徴類縁疾患に対する経カテーテル的対応
研究機関名	静岡県立こども病院
研究責任者	循環器科 田中 靖彦
研究期間	1996年1月～2023年9月
対象者	研究期間中にフォロー四徴症や類似の血行動態を示した両大血管右室起始症の患者さんで、生後3か月未満に介入を要した32名を対象としています。
当該研究の意義・目的	<p>フォロー四徴症や類似の血行動態を示す両大血管右室小では、根治術として右室流出路再建術を行います。個々の状態に応じて、自己の肺動脈弁を温存するか人工血管を用いて再建するかを判断しています。</p> <p>近年、遠隔期の肺動脈弁逆流が問題とされており、より逆流の少ない弁温存術が可能な限り望まれています。当院では以前より弁温存術が積極的に適応され、弁温存率は87%と非常に高いです。</p> <p>修復術は、通常生後6か月、体重6.0kgを目安に行いますが、低酸素血症などの理由でより早期の介入が必要な患者さんが存在します。対応は外科的シャント術、経カテーテル的に肺動脈弁へのバルーン拡大やステント留置があります。しかし、外科治療とカテーテル治療の適応に関しては明確な基準がありません。今回当院で治療させていただいた患者さんの情報を整理し、治療適応について検討させて頂きました。</p>
方法および研究で利用する試料・情報について	対象となる患者さんの診療録（カルテ）から次の情報を調査します。 <ul style="list-style-type: none">・背景因子（年齢、性別、診断など）・肺動脈弁の形態とサイズ（姑息術、根治術時）・姑息術の治療内容・最終的な弁温存率
個人情報の開示に係る手続き	個人情報の開示に係る手続きは、下記のとおりお問い合わせ先にご相談ください。

